

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和3年度～令和7年度）
研究開発課題名	新しい医薬品モダリティ・ワクチンや感染症治療薬の動態評価のためのPETイメージング技術の高度化に関する研究
代表機関名	長崎大学
研究開発代表者名	向井 英史

総合評価：優れている

【評価コメント】

本研究は、当初の提案計画を順調に進捗させるとともに、課題間連携における多様な創薬シーズを対象として、mRNA 医薬及びその LNP 製剤、細胞医薬、エクソソーム医薬等のポジトロン放出核種標識技術、並びに QC 技術の高度化・確立を実現し、必要な薬物動態解析データの提供により成果最大化に貢献した点が評価できる。さらに、感染モデル動物を用いる研究に向けて、PET や SPECT を用いた薬物動態研究が可能な高品質な環境を BSL3 施設内に整備できたことは、今後の感染症研究基盤の強化に資する成果として評価できる。

今後は、本研究成果をさらに深化させ、PET 技術による高精度な薬物動態解析の基盤技術構築を進めると共に、実用化・社会実装が加速することを望む。

以上